AstraZeneca

肝細胞がん
患者調査レポート

2024年７月

アストラゼネカ株式会社
オンコロジー事業本部

目次

調査概要	P.3
調査結果サマリー	P.4
本調査結果①肝細胞癌の患者さんの治療と生活	P.6
本調査結果②肝細胞がん治療中の体調の変化に関する情報認識と患者行動	P.21
回答者プロフィール	P.33

調査概要

調査目的	肝細胞がん患者さんの治療に伴う影響を明らかにする
調査項目	**①肝細胞がん患者さんの治療と生活：** 初回治療の種類、初回治療の期間、治療に伴う入院、仕事への影響、日常生活への影響、通院頻度、治療内容を決める前の医師とのコミュニケーション **②肝細胞がん治療中の体調の変化に関する情報認識と患者行動：** 医療従事者からの説明の状況、治療に伴う体調の変化に対する患者の行動
調査エリア	全国47都道府県
調査対象者	肝細胞がんと診断されたことのある方
回答者数	173名（内B型C型肝炎罹患歴あり：76名　罹患歴なし：91名　わからない：６名）
調査期間	2024年4月22日(月)～5月7日(火)
調査機関	株式会社メディリード
調査監修	奥坂拓志先生（国立がん研究センター中央病院　肝胆膵内科長）
調査主体	アストラゼネカ株式会社

本調査結果サマリー

調査結果サマリー

肝細胞がん患者さんの治療と生活

- 今回の調査の回答者の80%が10年以内に確定診断を受けた方であった
- 初回治療としては肝切除が一番多いが、「B型C型肝炎罹患歴無し」の患者さんでは、薬物治療（化学療法、免疫療法）が、「B型C型肝炎罹患歴あり」の患者さんより割合が高かった
- 初回に肝切除を受けた場合のその次の治療までの期間は32.8か月に対し、初回に薬物治療を受けた場合は11か月であった。
- 肝細胞癌の治療に関しては入院率が75%以上であった
- 診断時に仕事をしていた方のうち仕事への影響があった方は6割でそのうちの4割が休職を経験している
- 薬物治療経験者の7割が日常生活に影響があったと回答しており影響があった方の割合は薬物治療なしの方よりも高かった

参照先：P6～20

肝細胞がん治療中の体調の変化に関する情報認識と患者行動

- 治療開始前に9割の方が医療従事者から副作用などの体調への影響の説明を受けていたが、説明の頻度は「治療開始前に説明を受けたが、それ以降は受けていない」が45%と最多であった。
- 医師・薬剤師から説明された事としては、「どのような症状がおこるのか」、看護師からは「症状の出た際の連絡方法」についてが、多く挙げられていた。
- 肝細胞がん患者の3割は治療期間中に体調の変化や症状を経験しているが、そのうちの6割が次の診察日までその症状を医療従事者に伝えていない。その理由として「我慢できる範囲だと思ったから」「急いで報告すべき体調の変化や症状だとは思わなかったから」が上位にあがった。
- 経験した症状で多かったのは、「疲れやすい、体がだるい」「食欲の増加・低下」、「発熱」であったが発熱は「すぐに電話で連絡してこの症状を伝えた」割合が他の２つの症状と比べると高かった

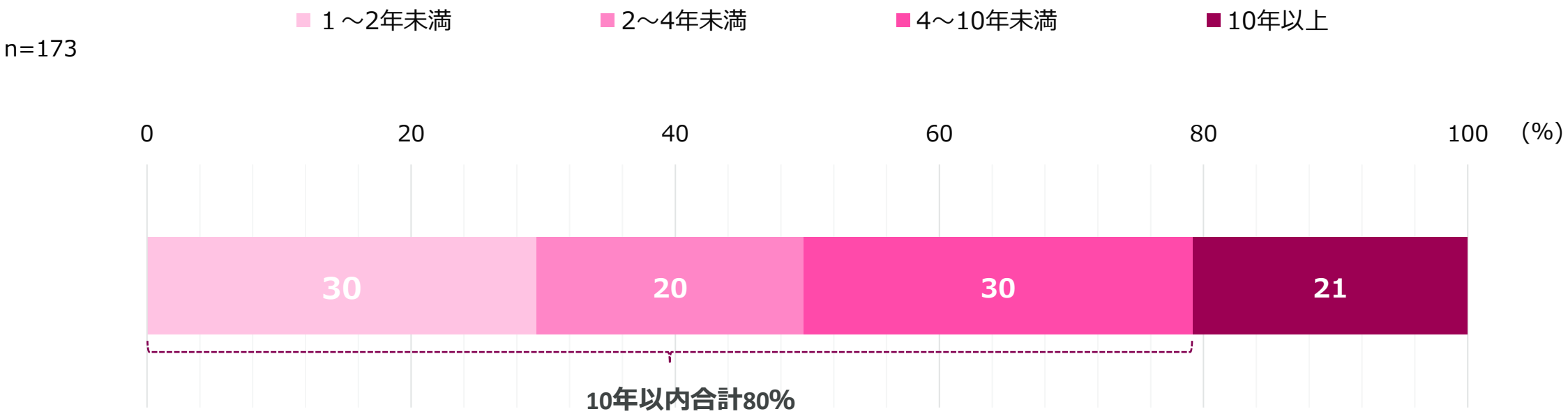
参照先：P21～32

本調査結果①
肝細胞癌の患者さんの治療と生活

診断時期

- **今回の調査の回答者のうちの80%が、10年以内に確定診断を受けた患者さんであった**

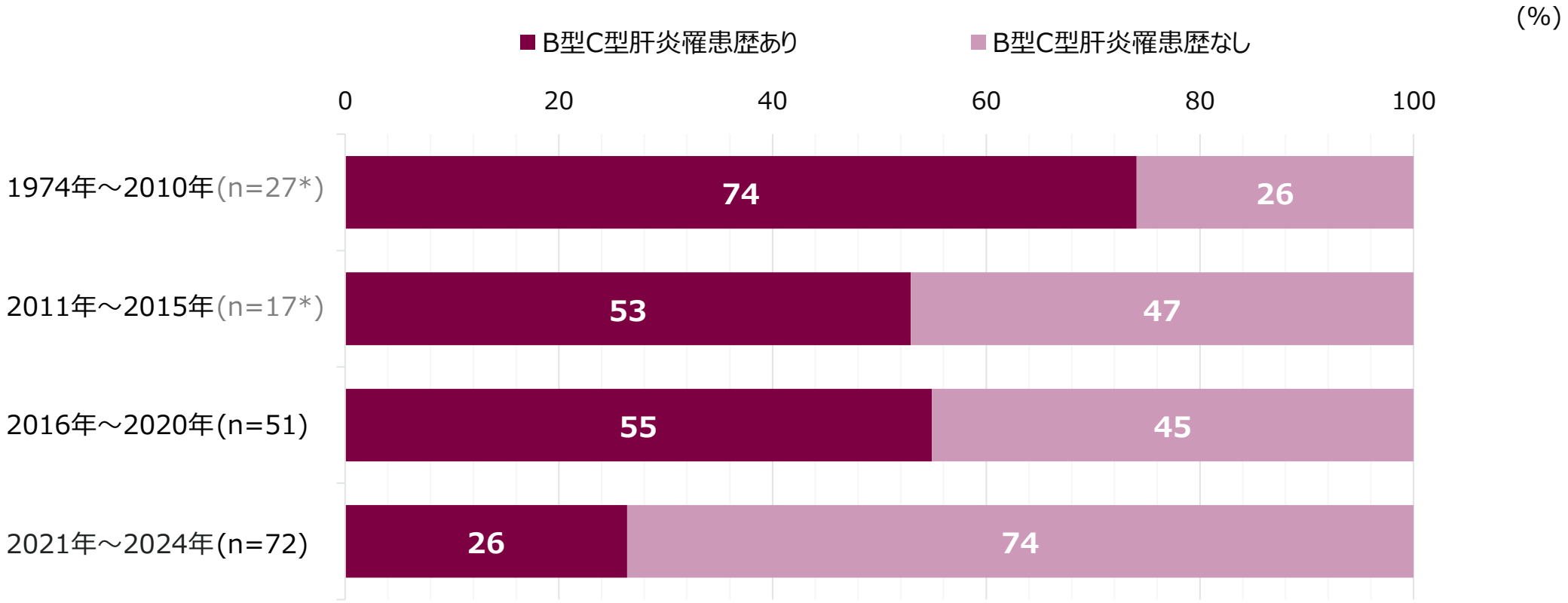
Q.あなたが肝細胞がんと確定診断されたのはいつ頃ですか。(年と月を入力)



診断時期（背景肝疾患別）

- **回答した患者さんのうち、2010年以前に診断されたB型C型肝炎罹患歴ありの患者さんの割合は74%であったのに対し、2011年から2020年にはその割合が約半数となり、2021年以降においては26%であった**

Q.あなたが肝細胞がんと確定診断されたのはいつ頃ですか。(年と月を入力)

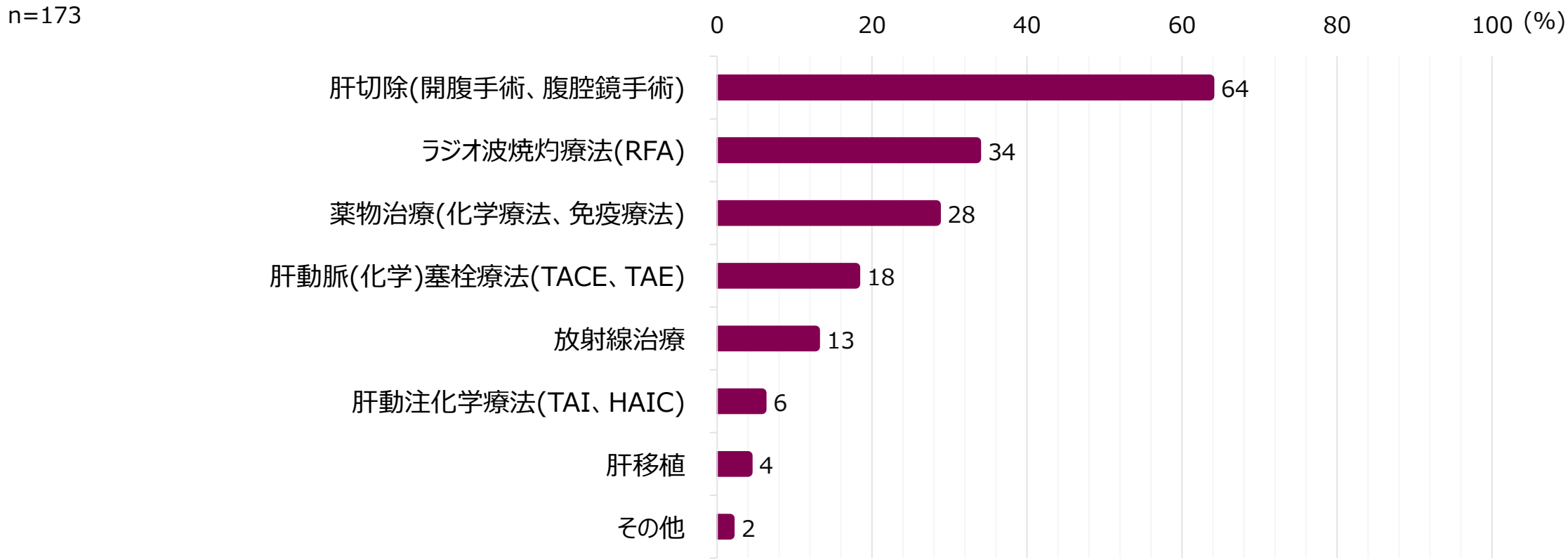


*n=30未満のため参考値

これまでに受けた治療

- **これまでに受けた治療で最も多かったのは「肝切除（開腹手術、腹腔鏡手術）」で64%の患者さんが経験していた**
- **「肝移植」、「肝動注化学療法（TAI、HAIC）」を経験した患者さんは1割未満であった**

Q.「肝細胞がん」にかかったことのある方に伺います。現在継続中の治療も含め、あなたがこれまでに受けた肝細胞がんに対する治療をすべてお選びください。(複数回答)



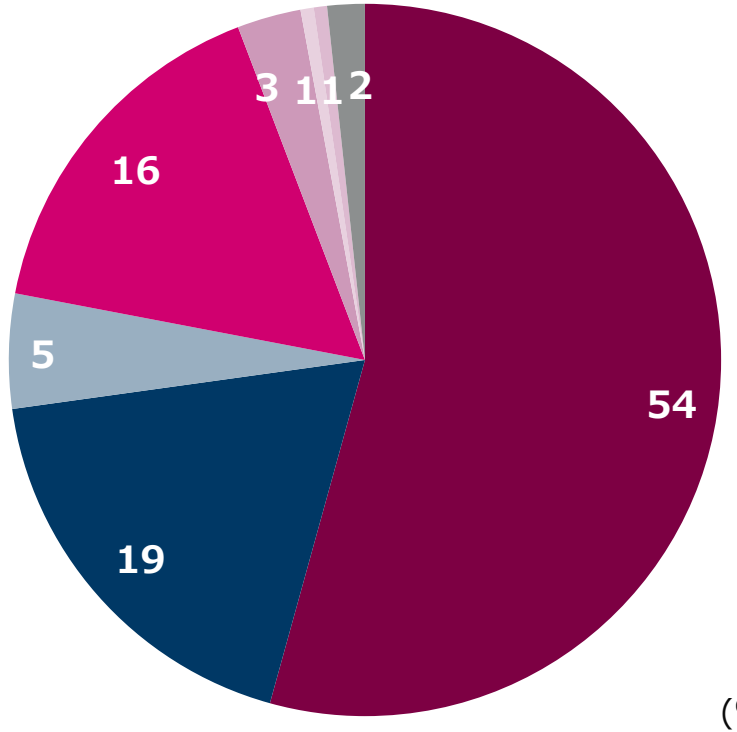
※全体の値を基準に降順ソート

初回治療の種類

- **確定診断後の最初の治療は「肝切除(開腹手術、腹腔鏡手術)」が54%と最も多く、次いで「ラジオ波焼灼療法」（19%）「薬物治療(化学療法、免疫療法)」（16%）が多かった**

Q.「肝細胞がん」と診断されてから現在までの治療内容とその実施時期(薬物治療であれば開始時期・変更時期)を古い治療から順に教えてください。/最初の治療

n=173



(%)

- 肝切除(開腹手術、腹腔鏡手術)
- ラジオ波焼灼療法(RFA)
- 肝動脈(化学)塞栓療法(TACE、TAE)
- 薬物治療(化学療法、免疫療法)
- 放射線治療
- 肝動注化学療法(TAI、HAIC)
- 肝移植
- その他

※全体の値を基準に降順ソート

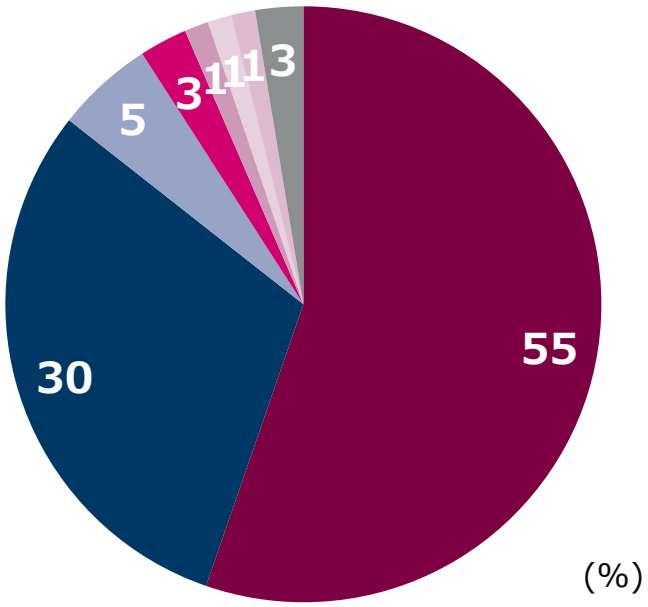
初回治療の種類（B型C型肝炎罹患歴別）

- **確定診断後の初回治療において、「薬物治療(化学療法/免疫療法)」を受けた患者さんをB型C型肝炎罹患歴別で比較した場合、罹患歴ある患者さんが3%であったのに対し、罹患歴ない患者さんではその8倍の24%であった**

Q.「肝細胞がん」と診断されてから現在までの治療内容とその実施時期(薬物治療であれば開始時期・変更時期)を古い治療から順に教えてください。/最初の治療

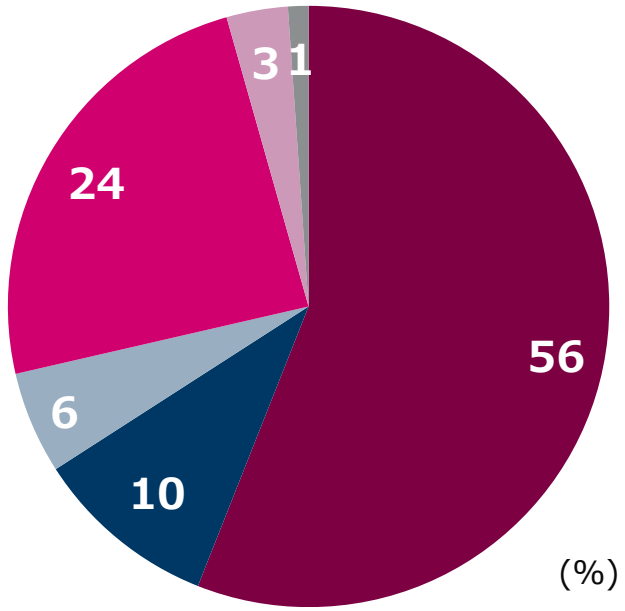
B型C型肝炎罹患歴あり

n=76



B型C型肝炎罹患歴なし

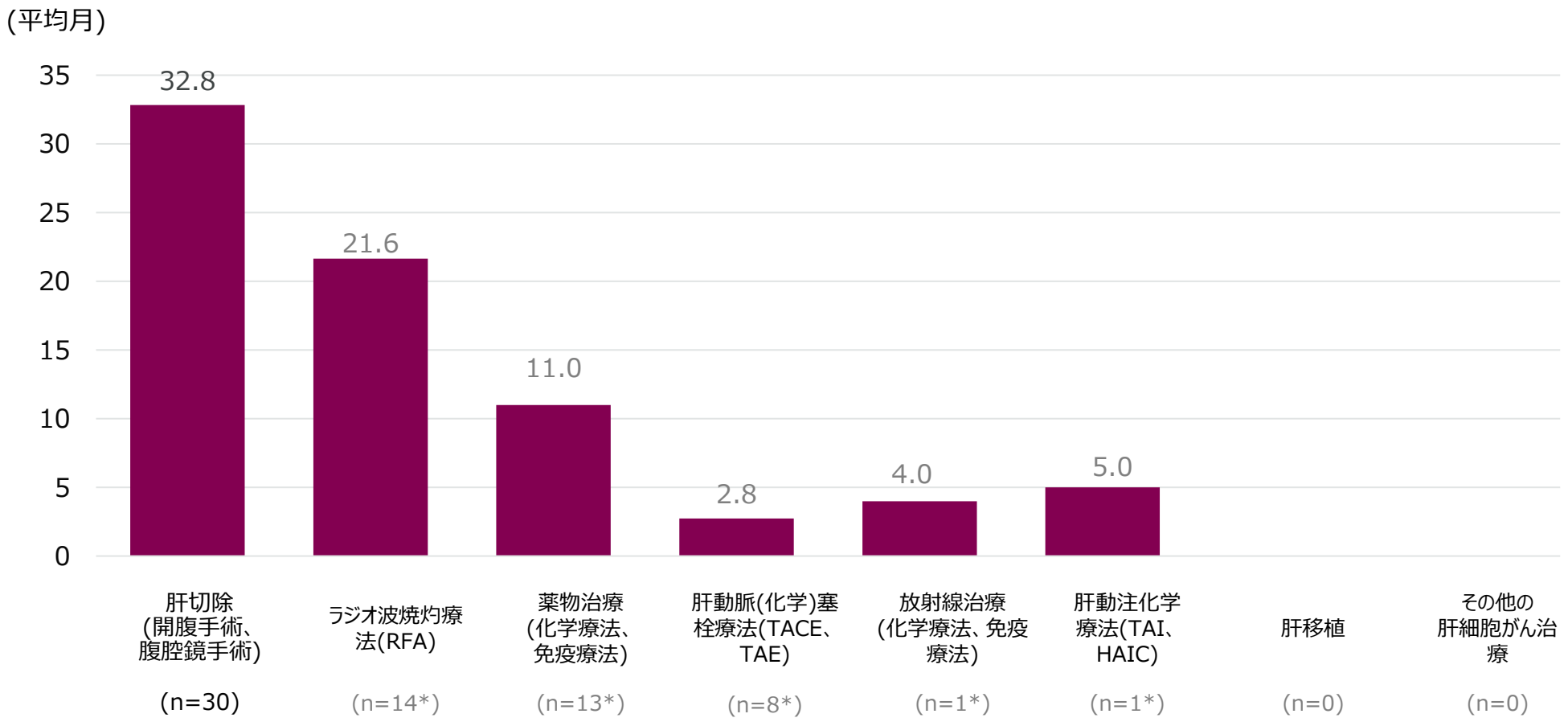
n=91



- 肝切除(開腹手術、腹腔鏡手術)
- ラジオ波焼灼療法(RFA)
- 肝動脈(化学)塞栓療法(TACE、TAE)
- 薬物治療(化学療法、免疫療法)
- 放射線治療
- 肝動注化学療法(TAI、HAIC)
- 肝移植
- その他

初回治療種類別 初回治療から次治療までの期間

- 初回治療から次治療までの期間は、初回治療で「肝切除(開腹手術、腹腔鏡手術) 」を経験した患者さんが32.8か月と最も長かった

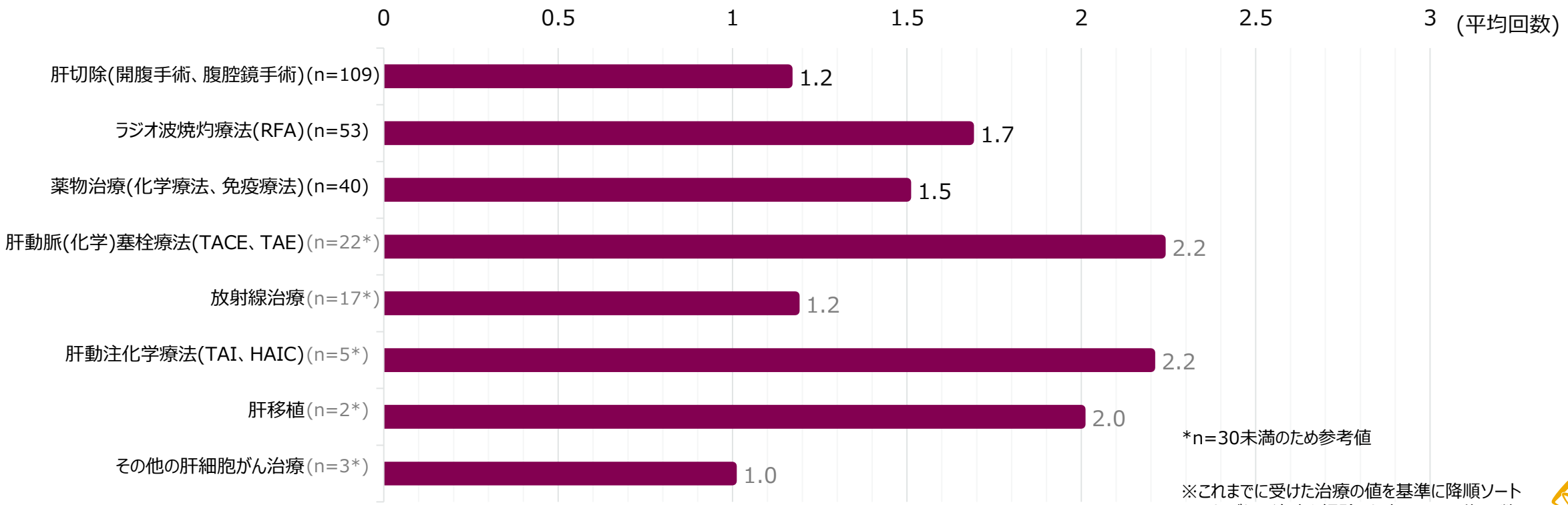


*n=30未満のため参考値
※治療を2回以上経験している方のみに絞って集計

治療平均経験回数

- **それぞれの治療は平均1.0回以上行われていた**

Q.「肝細胞がん」と診断されてから現在までの治療内容とその実施時期(薬物治療であれば開始時期・変更時期)を古い治療から順に教えてください。
(治療を選択し、年月を数字で入力)

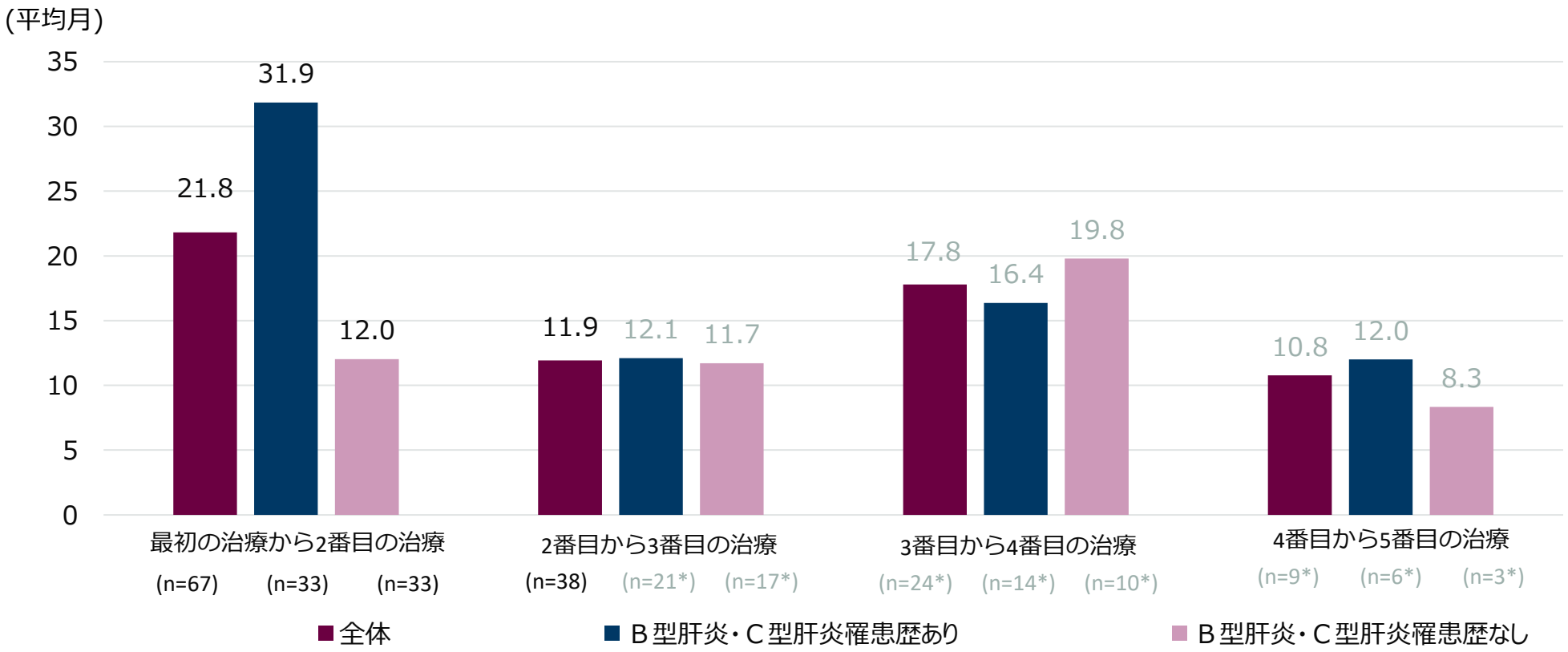


*n=30未満のため参考値

※これまでに受けた治療の値を基準に降順ソート
※それぞれの治療を経験した方のみの平均回数

次治療までの期間（全体、 B型C型肝炎罹患歴別）

- 最初の治療から2番目の治療期間は、「B型肝炎C型肝炎罹患歴あり」の患者さんでは31.9か月であったのに対し、「B型肝炎C型肝炎罹患歴なし」の患者さんでは12.0か月であった



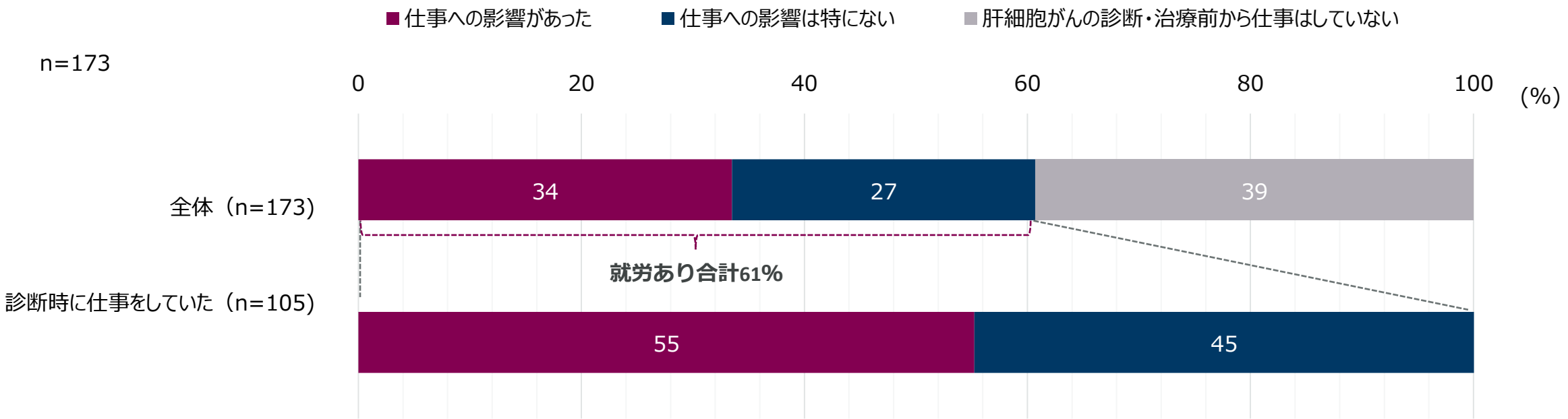
*n=30未満のため参考値

Q.「肝細胞がん」と診断されてから現在までの治療内容とその実施時期(薬物治療であれば開始時期・変更時期)を古い治療から順に教えてください。
(治療を選択し、年月を数字で入力)

仕事への影響有無

- **診断時に就労していた方は61%で、そのうち55%が仕事へ何らかの影響があった**

Q.「肝細胞がん」と診断され治療を開始したことにより、仕事への影響(退職、休職、転職、部署異動など)は何かありましたか。診断直後の影響だけではなく、入院や通院治療が原因だったと思う最終的な影響についてお答えください。

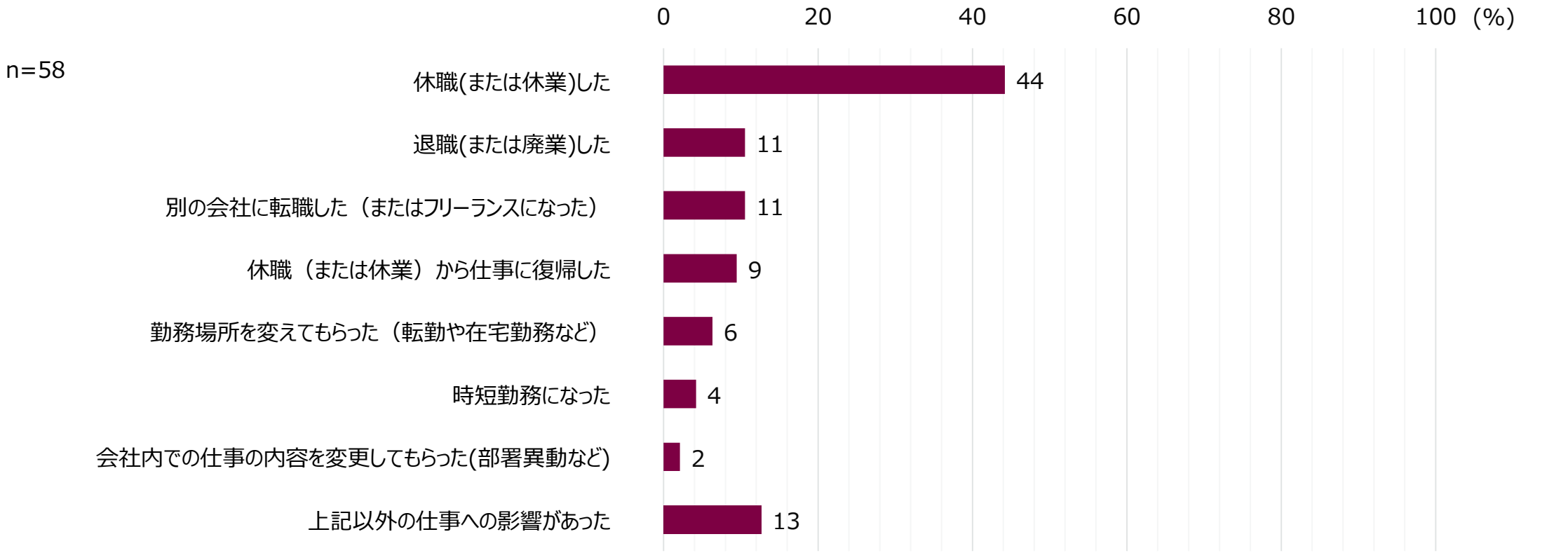


勤務状況の変化

- **肝細胞がんの治療を開始してから仕事への影響があった患者さんのうち、44%の患者さんが休職（または休業）を経験し、勤務先で勤務時間や勤務場所、仕事内容を調整して働き続けた患者さんはそれぞれ１割未満であった**

Q.「肝細胞がん」と診断され治療を開始したことにより、仕事に関していつ頃どのような影響（退職、休職、転職、部署異動など）がありましたか。
古い内容から順に教えてください。(影響を選択し、年月を数字で入力)

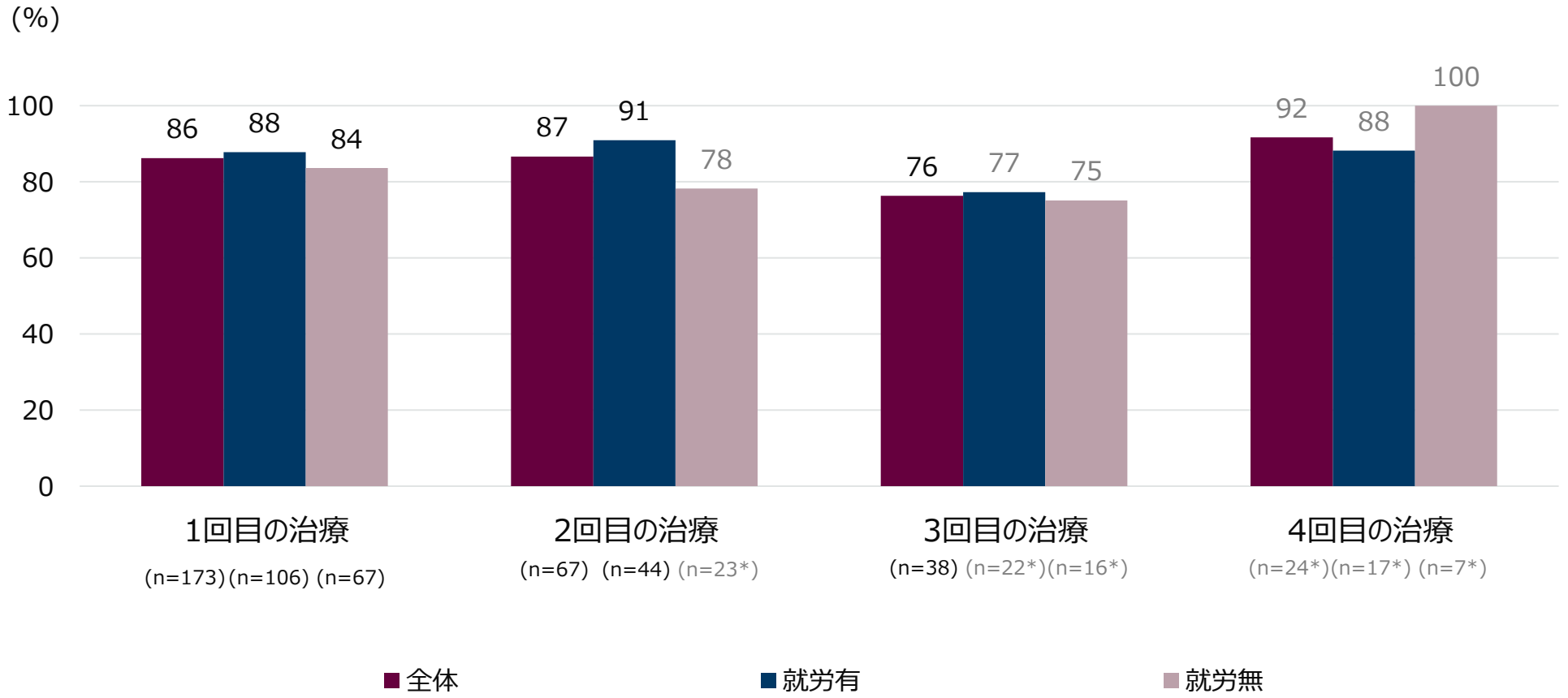
※仕事への影響があった方のみ回答



※全体の値を基準に降順ソート

治療に伴う入院の割合

- **診断時の就労有無にかかわらず、肝細胞がんの治療に伴う入院率は75%以上であった**



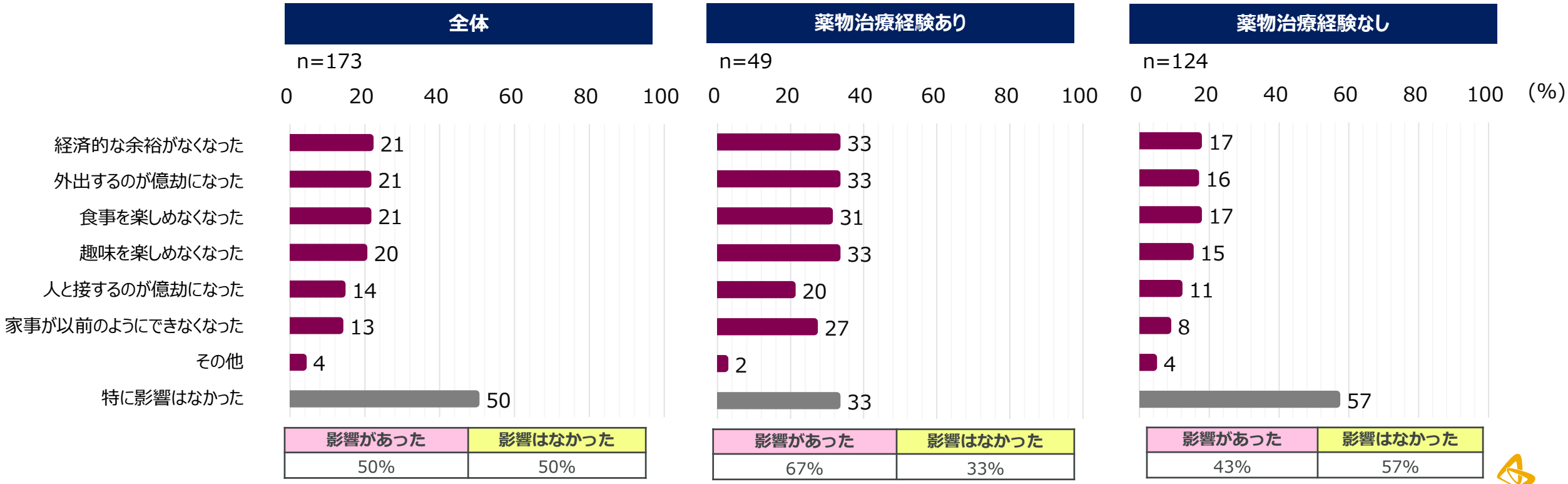
Q.「肝細胞がん」と診断されてから現在までの治療内容とその実施時期(薬物治療であれば開始時期・変更時期)を古い治療から順に教えてください。
(治療を選択し、年月を数字で入力)

*n=30未満のため参考値

治療種別日常生活への影響（全体、薬物治療有無）

- **薬物治療を経験した患者さんは、経験なしの患者さんと比較して、日常生活に治療の影響があったと回答した割合が、その他以外の全ての項目で高かった**

Q.「肝細胞がん」と診断され治療していく中で、日常生活にどのような影響がありましたか。当てはまる内容をすべてお選びください。(複数回答)

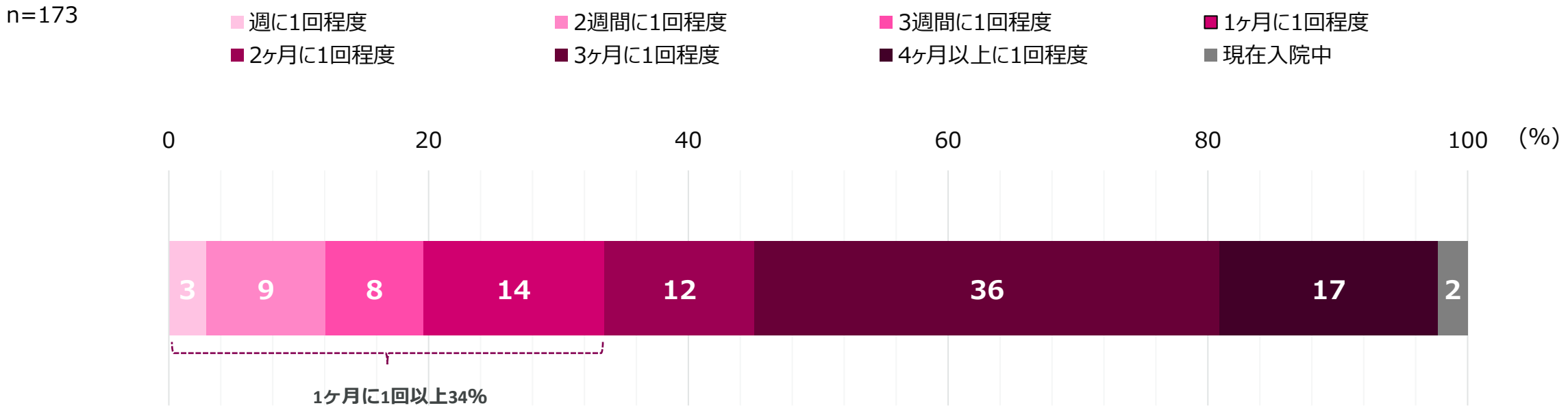


※全体の値を基準に降順ソート

通院頻度

- **肝細胞がんの治療の通院頻度は「3ヶ月に1回程度」が36%と最も多かった**
- **1か月に1回以上の通院をしている患者さんは34%であった**

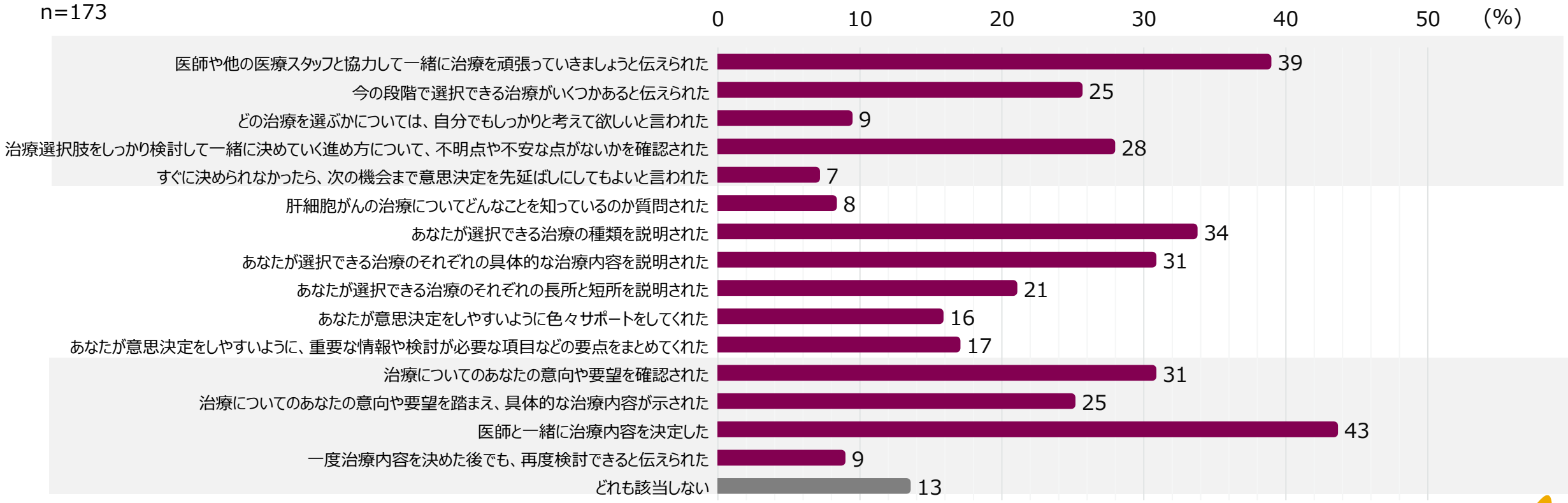
Q.あなたが肝細胞がんの治療のために通院している頻度をお選びください。※直近数回の通院のおおよその平均でお考え下さい。



治療内容を決める前の医師とのコミュニケーションに、受けた印象

- **治療内容を決めるプロセスにおいて、「医師と一緒に内容を決定した」が43%、「医師やほかのスタッフと協力して一緒に治療を頑張っていきましょうと伝えられた」が39%、「選択できる治療の種類を説明された」が34%であった**

Q.次のうち、あなたが最も最近受けた(または現在実施している)肝細胞がんの治療の治療内容を決める前に、医師から実施された内容をすべてお選びください。(複数回答)



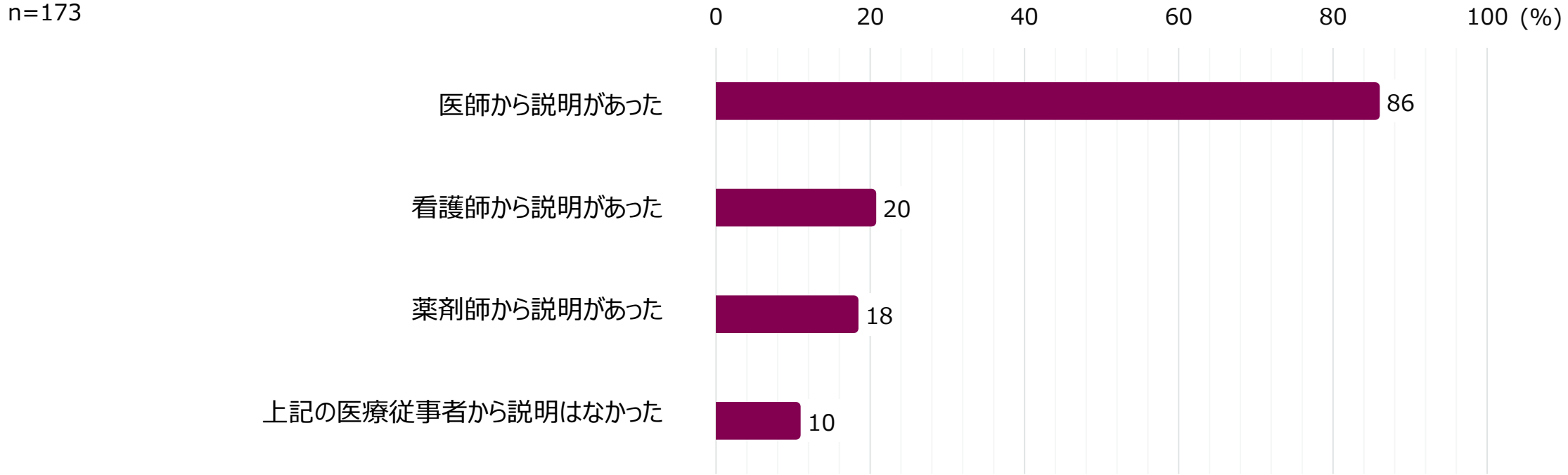
本調査結果②

肝細胞がん治療中の体調の変化に関する情報認識と患者行動

治療に伴う体調への影響（副作用など）に関する説明をどの医療従事者から受けたか

- 86%の患者さんが、医師から治療開始前に治療に伴う体調への影響についての説明を受けていた

Q.直近の肝細胞がんの治療開始前に、医師や看護師・薬剤師から治療に伴う体調への影響(副作用など)についての説明はありましたか。
複数の医療従事者(医師・看護師・薬剤師)から説明があった場合は該当する医療従事者をすべてお選びください。(複数回答)

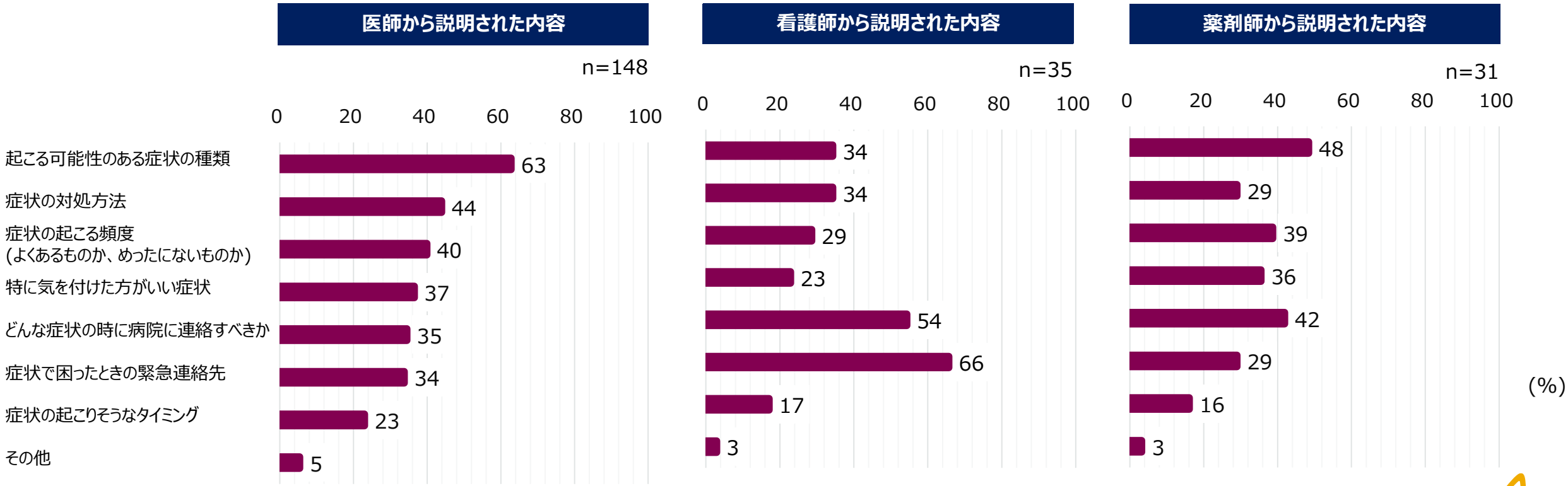


医療従事者から説明があった	説明はなかった
90%	10%

医療従事者からの説明内容

- **治療に伴う体調への影響について、医師および薬剤師から説明された内容で最も多かったのは「起こる可能性のある症状の種類」であり、看護師から説明された内容は「症状で困ったときの緊急連絡先」であった**

Q.直近の肝細胞がんの治療開始前に、治療に伴う体調への影響(副作用など)に関するどのような説明がありましたか。
説明をした医療従事者ごとにそれぞれ該当する項目をすべてお選びください。(複数回答)

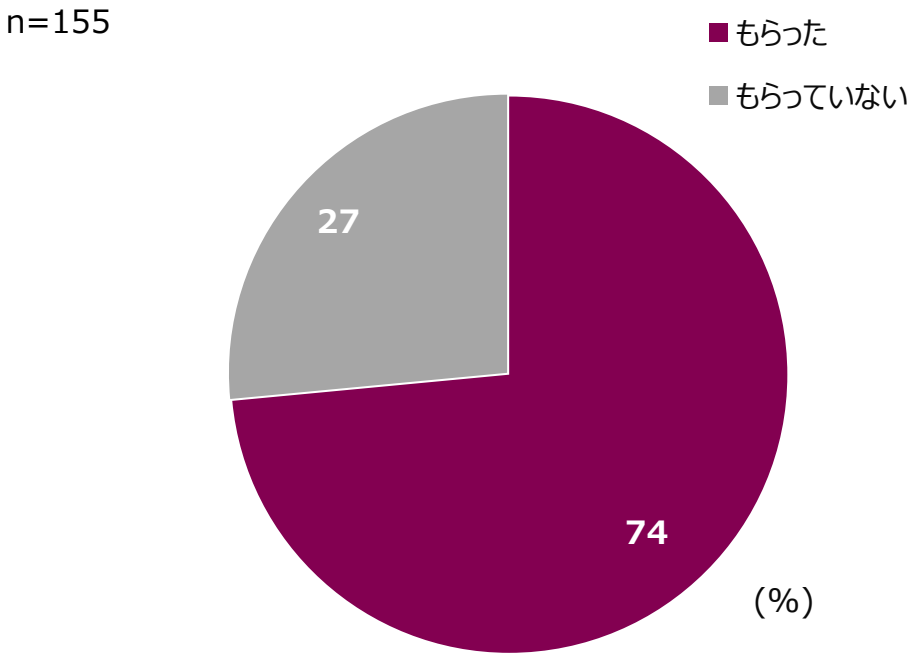


※医師から説明された内容の値を基準に降順ソート

説明時の、資料有無と説明の頻度

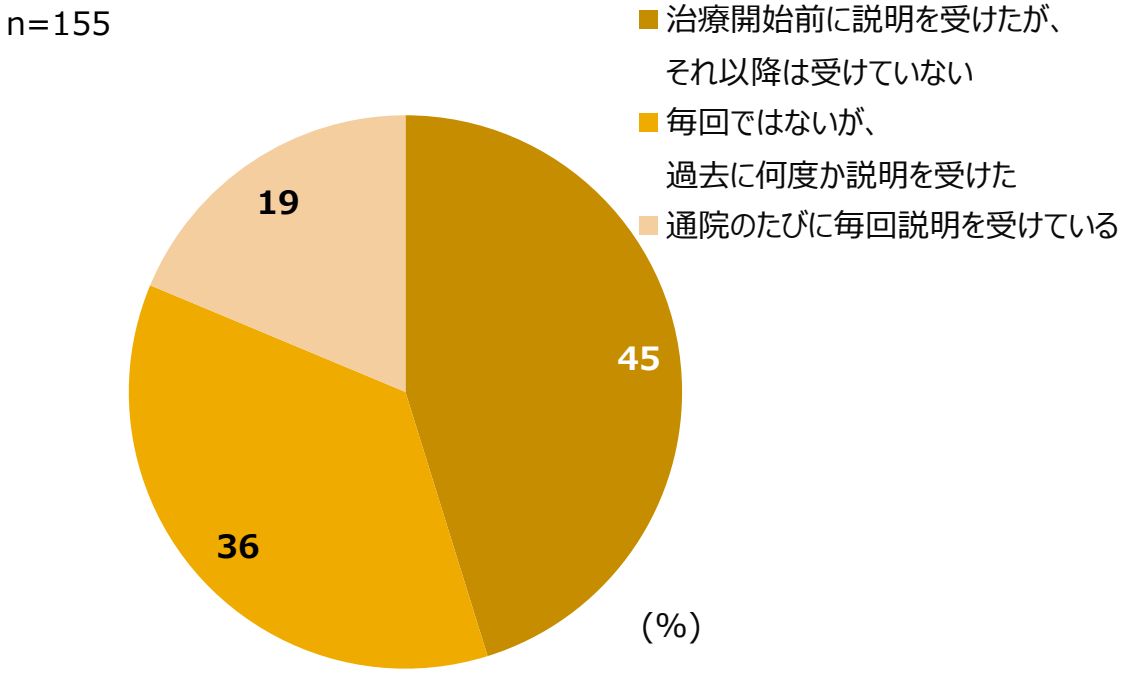
- **治療に伴う体調への影響（副作用など）に関する説明を受けた際、パンフレットや資料をもらった患者さんは74%であった**
- **説明の頻度は「治療開始前に説明を受けたが、それ以降は受けていない」が45%と最多であった**

Q.直近の肝細胞がんの治療開始前に治療に伴う体調への影響(副作用など)に関する説明を受けた際に、症状に関する詳細な内容が記載されているパンフレットや資料をもらいましたか。



※治療前に医療従事者から体調への影響の説明があった方のみ回答

Q.直近の肝細胞がん治療の治療に伴う体調への影響(副作用など)に関して、医師や看護師・薬剤師からどれくらいの頻度で説明がありましたか。

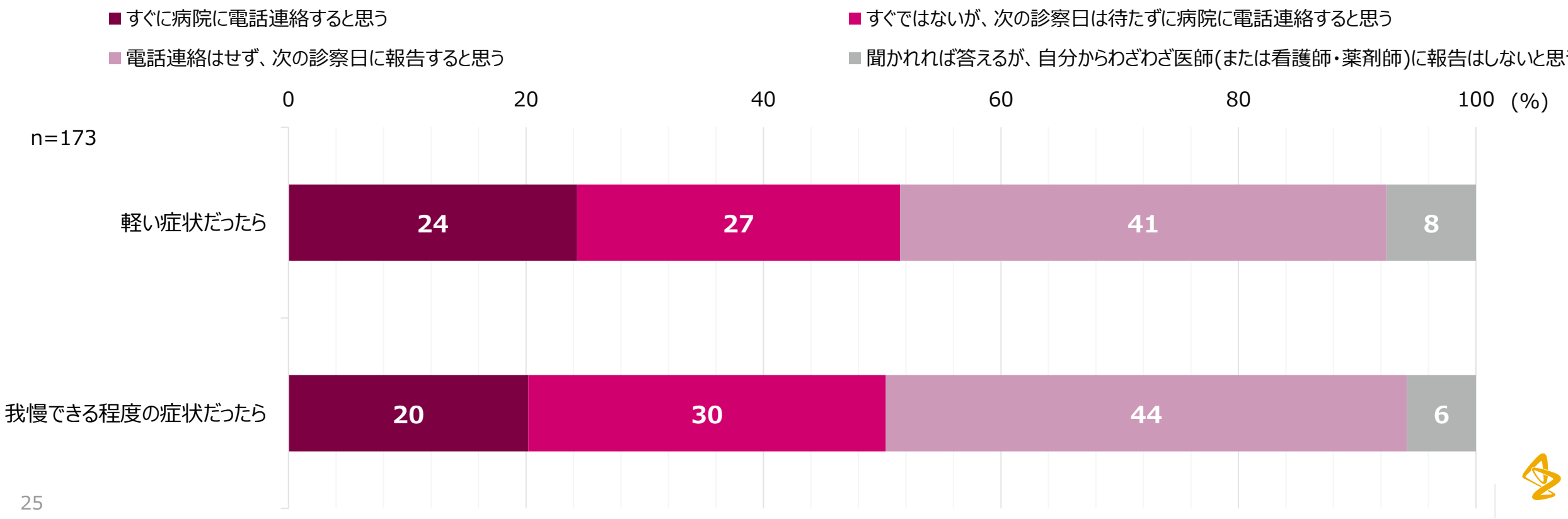


※治療前に医療従事者から体調への影響の説明があった方のみ回答

治療に伴う体調への影響(副作用などの症状)が発生した時、どうするか

- **症状などが発生したら「すぐに、あるいは、次の診療日は待たずに連絡すると思う」が、軽い症状だったら51%、我慢できる程度の症状だったら50%であった**

Q.仮に今後、自宅などの病院外にいる際に「肝細胞がん」の治療に伴う体調への影響(副作用など)と思われる症状が発生したとしたら、あなたはどうすると思いますか。それぞれの場合について、お答えください。

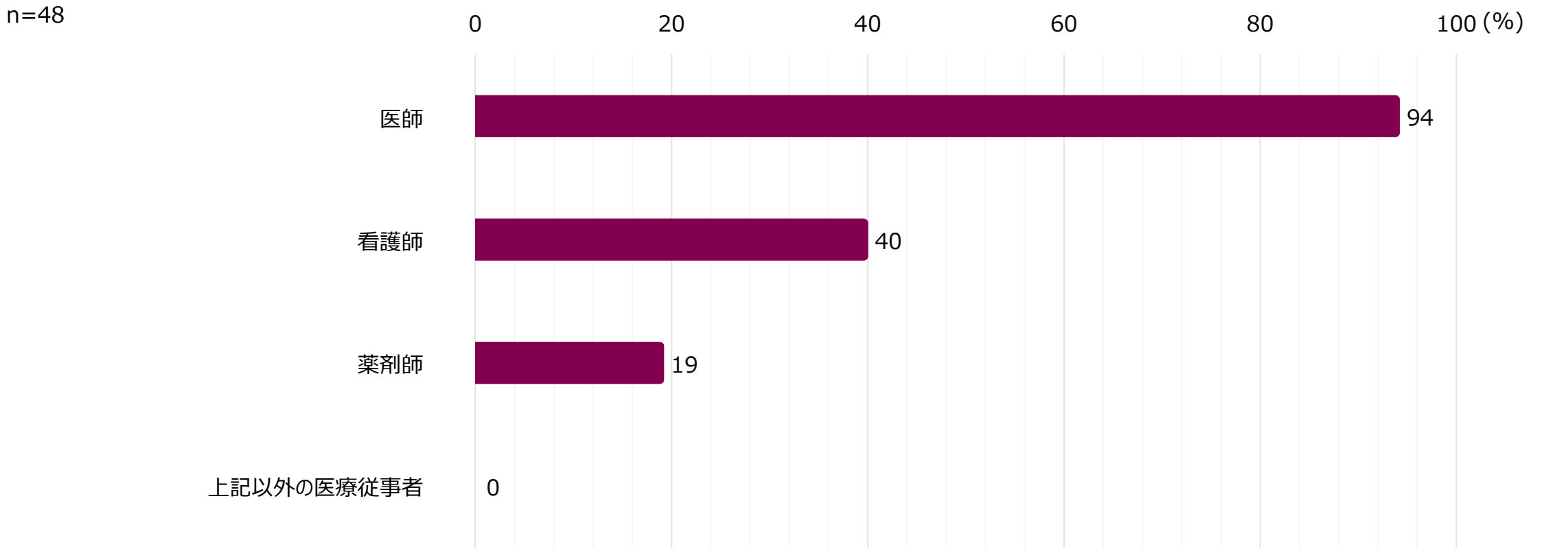


症状を伝えた医療従事者

- **病院外で経験した体調の変化や症状を伝えた相手は医師が94%、看護師が40%、薬剤師が19%であった**

Q.直近で、自宅など病院外で体調の変化や症状を経験された方にお伺いします。その症状をどの医療従事者に伝えましたか。(複数回答)

※症状を医療従事者に伝えた方のみ回答

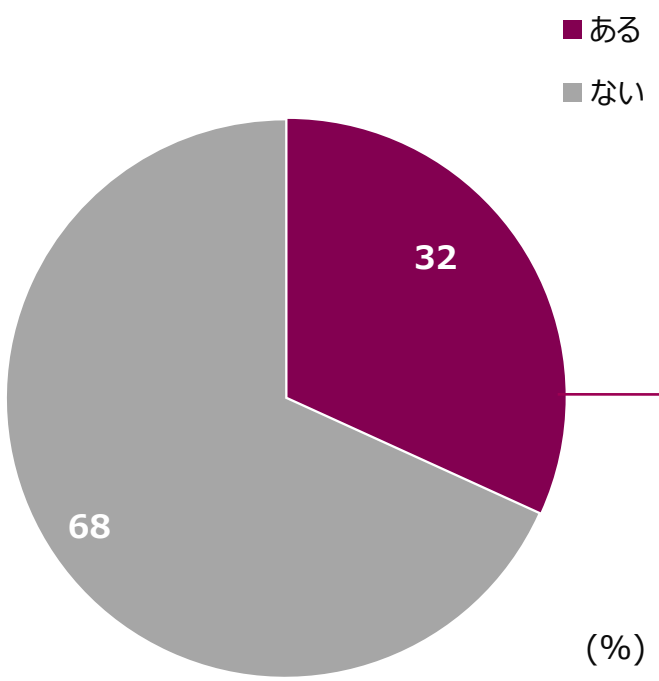


治療中の症状の経験と、その症状を医療従事者に伝えたか

- 治療期間中に病院外で体調の変化や症状を経験した患者さんは32%で、そのうちの64%が医療従事者に「次の診察日を待って通院した際に伝えた」
- 体調の変化や症状を医療従事者に伝えていない患者さんは13%存在した

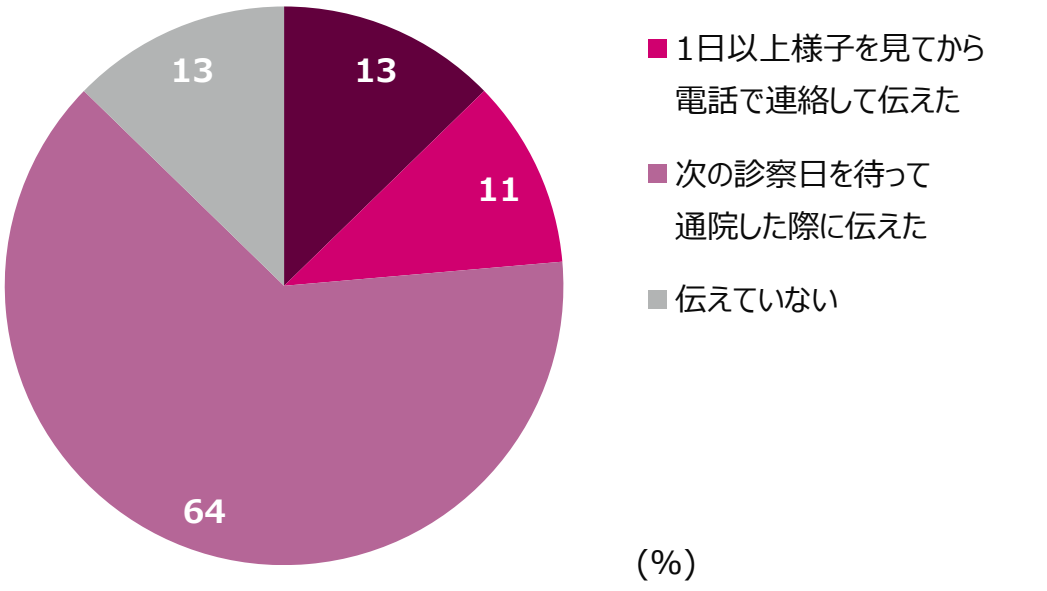
Q.あなたはこれまでの肝細胞がん治療期間中、自宅などの病院外にいる際に体調の変化や症状(治療の副作用の疑いなど)を経験したことはありますか。

n=173



Q.担当医や看護師・薬剤師など医療従事者に、その症状を伝えましたか。

n=55

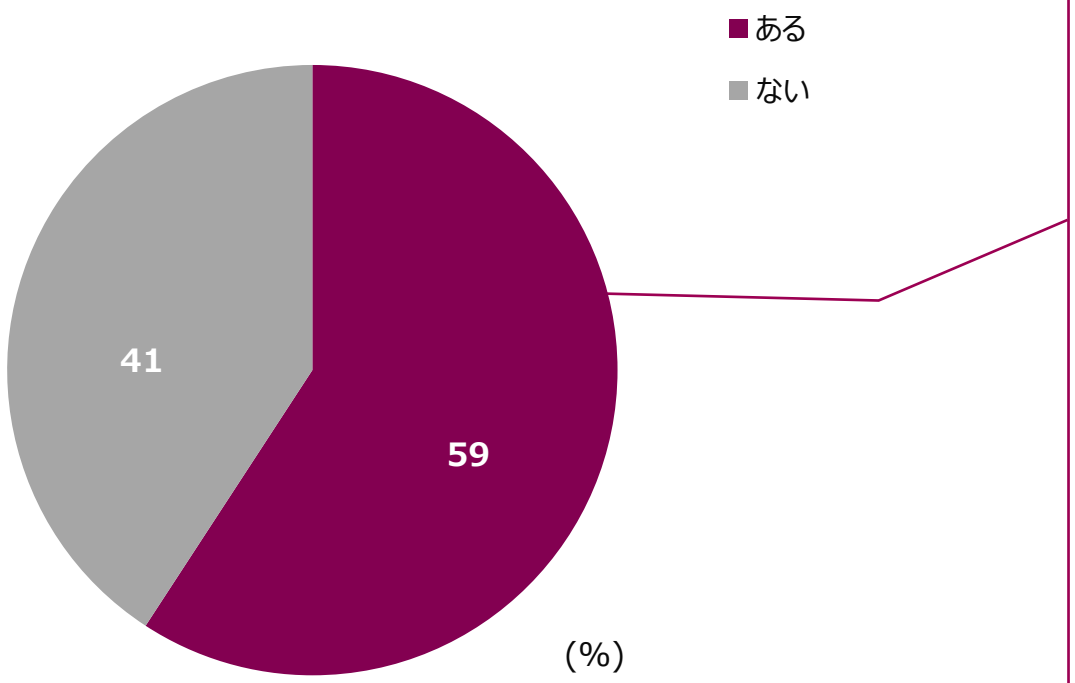


治療中の症状の経験と、その症状を医療従事者に伝えたか（薬物治療経験者）

- **薬物治療を経験した患者さんにおいては、59%が体調の変化や症状を経験しており、経験した患者さんのすべてが医療従事者にその症状を伝えていたが、そのうちの72%が「次の診療日を待って通院した際に伝えた」と回答した**

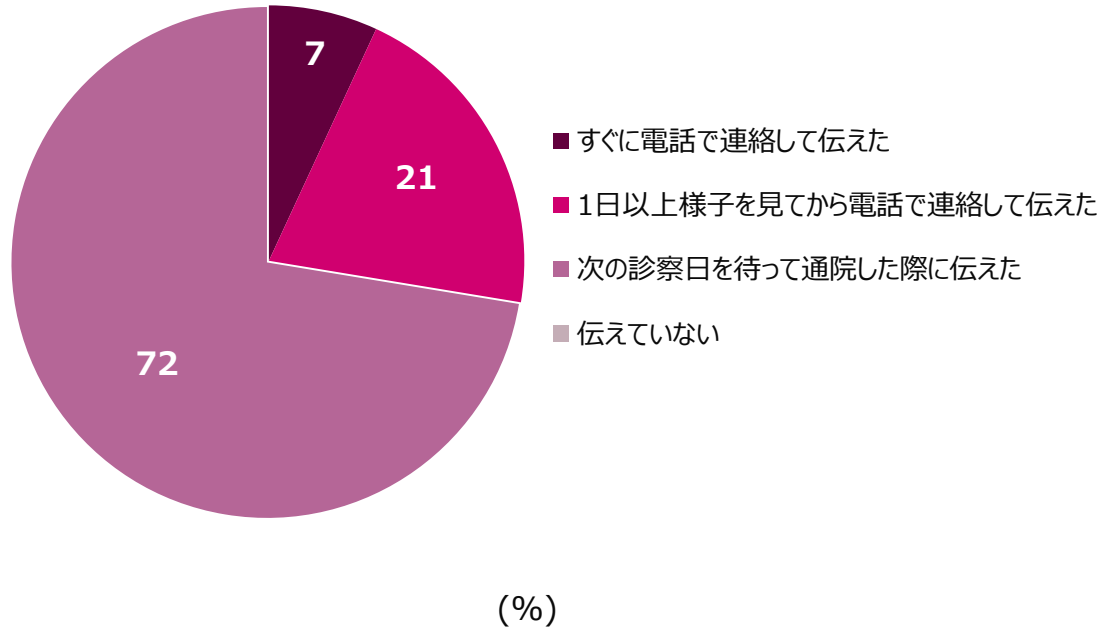
Q.あなたはこれまでの肝細胞がん治療期間中、自宅などの病院外にいる際に体調の変化や症状(治療の副作用の疑いなど)を経験したことはありますか。

n=49



Q.直近で、自宅などの病院外で生じた体調の変化や症状について伺います。それを医師や看護師・薬剤師に伝えましたか。※症状を経験した方のみ回答

n=29*

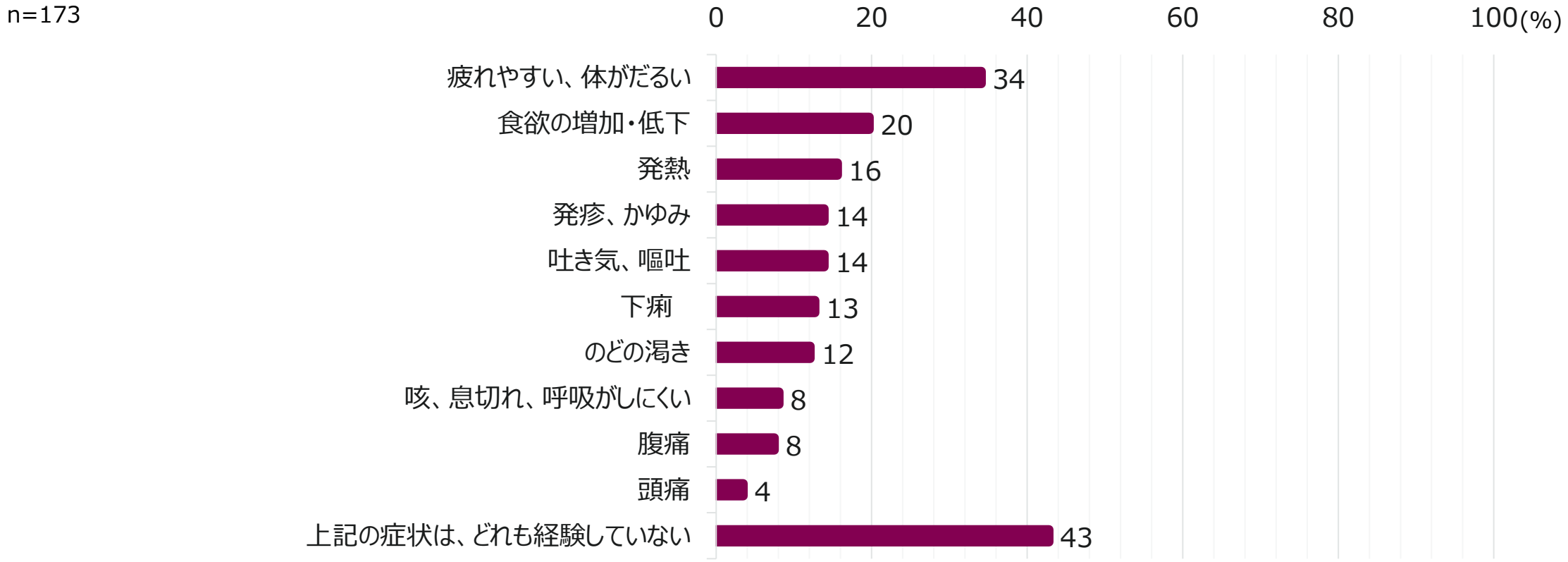


*n=30未満のため参考値

治療開始後に経験した症状

- **肝細胞がん患者さんが治療を開始してから経験した症状は「疲れやすい、体がだるい」が34%と最も多く、次いで「食欲の増加・低下」が20%、「発熱」が16%であった**

Q.次の症状のうち、肝細胞がんの治療を開始してからあなたが経験したことがある症状をすべてお選びください。(複数回答)

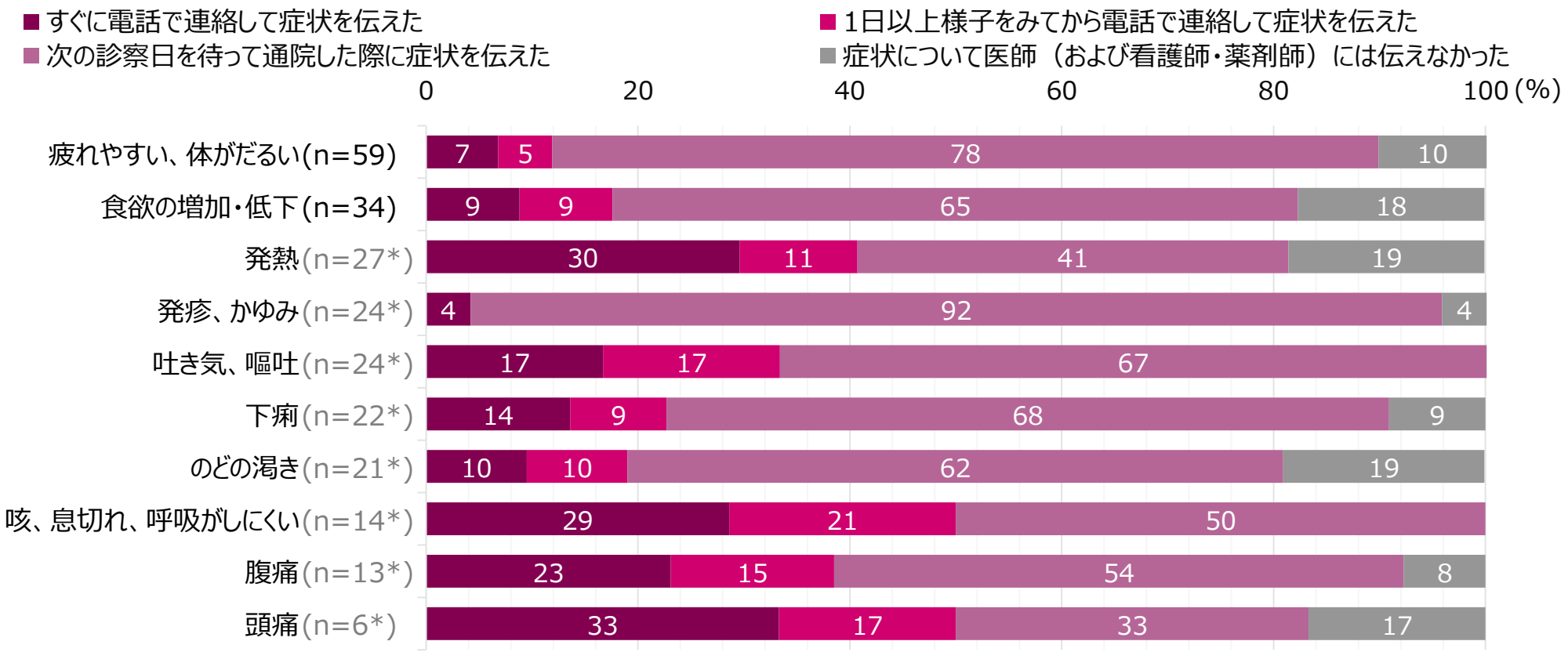


※全体の値を基準に降順ソート

それぞれの症状への対応

- **いずれの症状においても、症状が出た際に「次の診察日を待って通院した際に症状を伝えた」患者さんが多かった**
- **「発熱」「咳、息切れ、呼吸がしにくい」「頭痛」は、「すぐに電話で連絡して症状を伝えた」割合が他の症状より高かった**

Q.肝細胞がんの治療中に次の症状が出た際、それぞれどのように対応しましたか。症状ごとに該当する内容をお選びください。



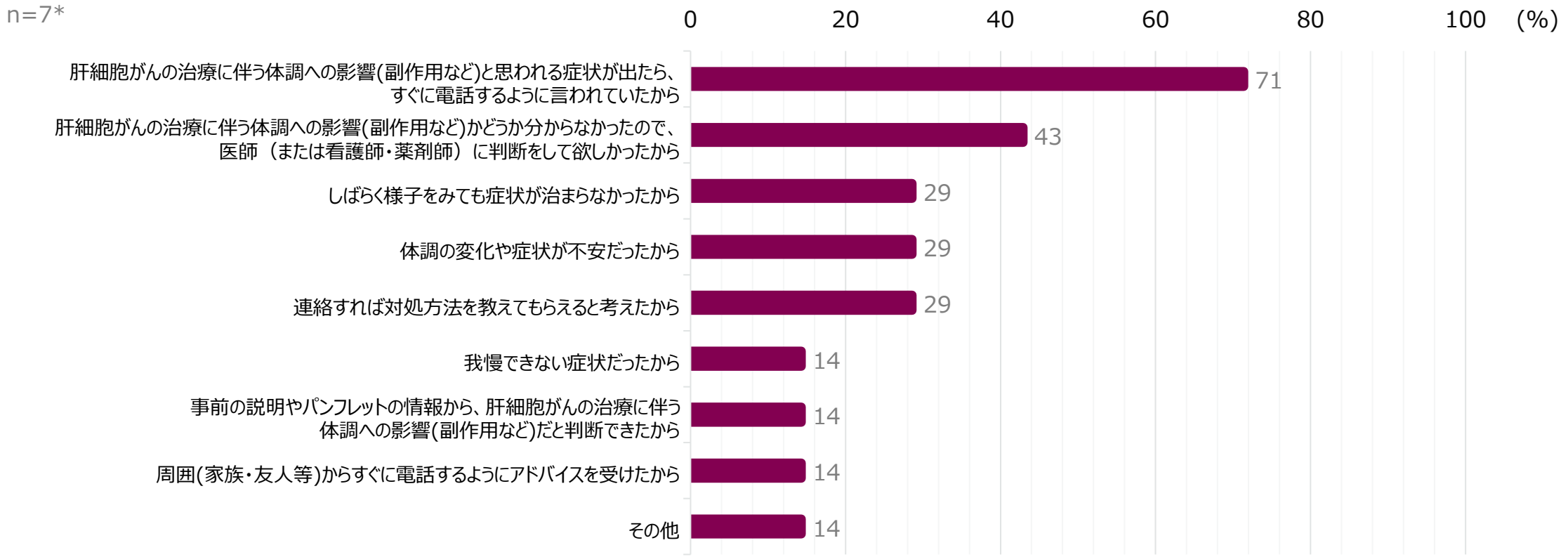
*n=30未満のため参考値
※経験した症状の値を基準に降順ソート

症状があった際にすぐに電話で伝えた理由

- **症状があった際にすぐに電話で連絡して伝えた理由は「肝細胞がんの治療に伴う体調への影響（副作用など）と思われる症状が出たら、すぐに電話するように言われていたから」が71%と最多であった**

Q.症状があった際に、すぐに電話で連絡して伝えた理由をすべてお選びください。(複数回答)

※症状があった際にすぐに電話で連絡した方のみ回答



*n=30未満のため参考値
※全体の値を基準に降順ソート

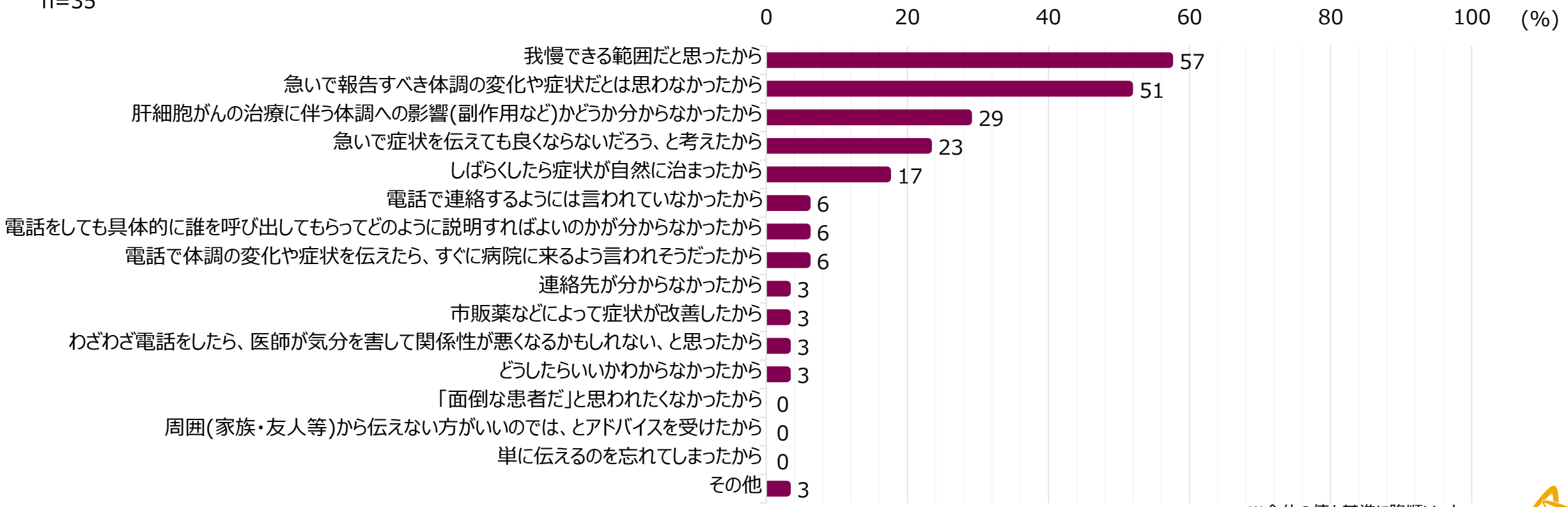
症状があった際に電話で連絡しなかった理由

- **症状があった際に電話で連絡しなかった理由は「我慢できる範囲だと思ったから」が57%と最も多く、次いで「急いで報告すべき体調の変化や症状だとは思わなかったから」が51%、「肝細胞がんの治療に伴う体調への影響（副作用など）かどうか分からなかったから」が29%であった**

Q.症状を電話では連絡しなかった理由をすべてお選びください。(複数回答)

※次の診察日を待って伝えたと回答した方のみ回答

n=35



※全体の値を基準に降順ソート

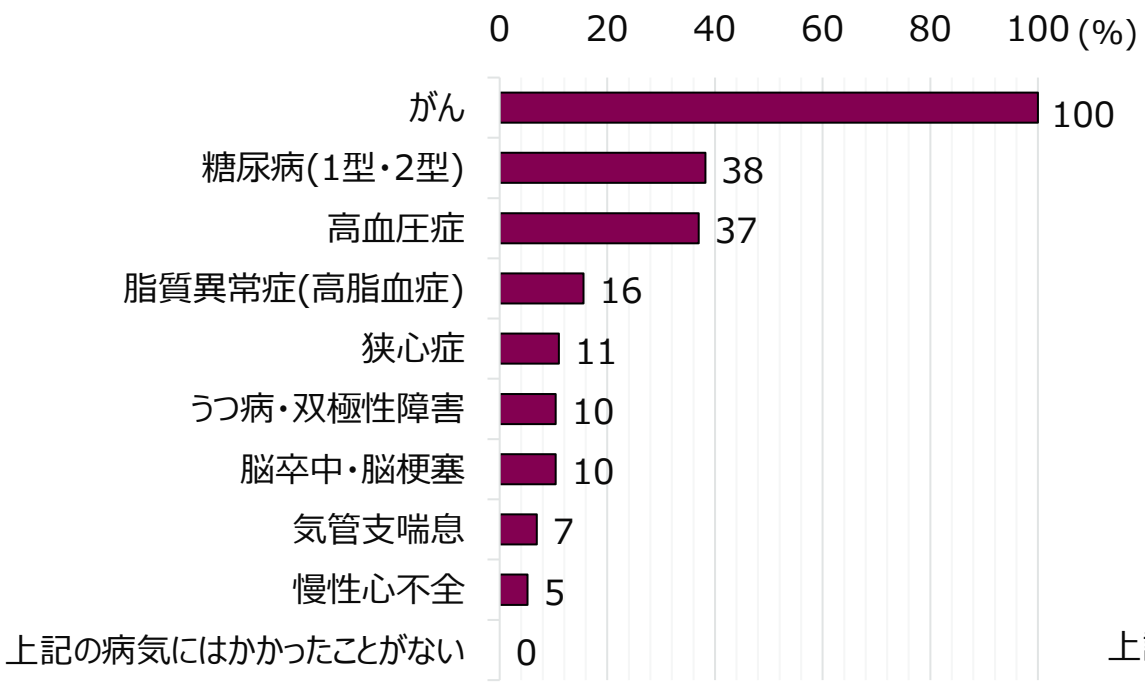
回答者プロフィール

既往歴

- **肝細胞がん患者さんのうちの38%が「糖尿病(1型・2型)」を、37%が「高血圧症」を併存していた**

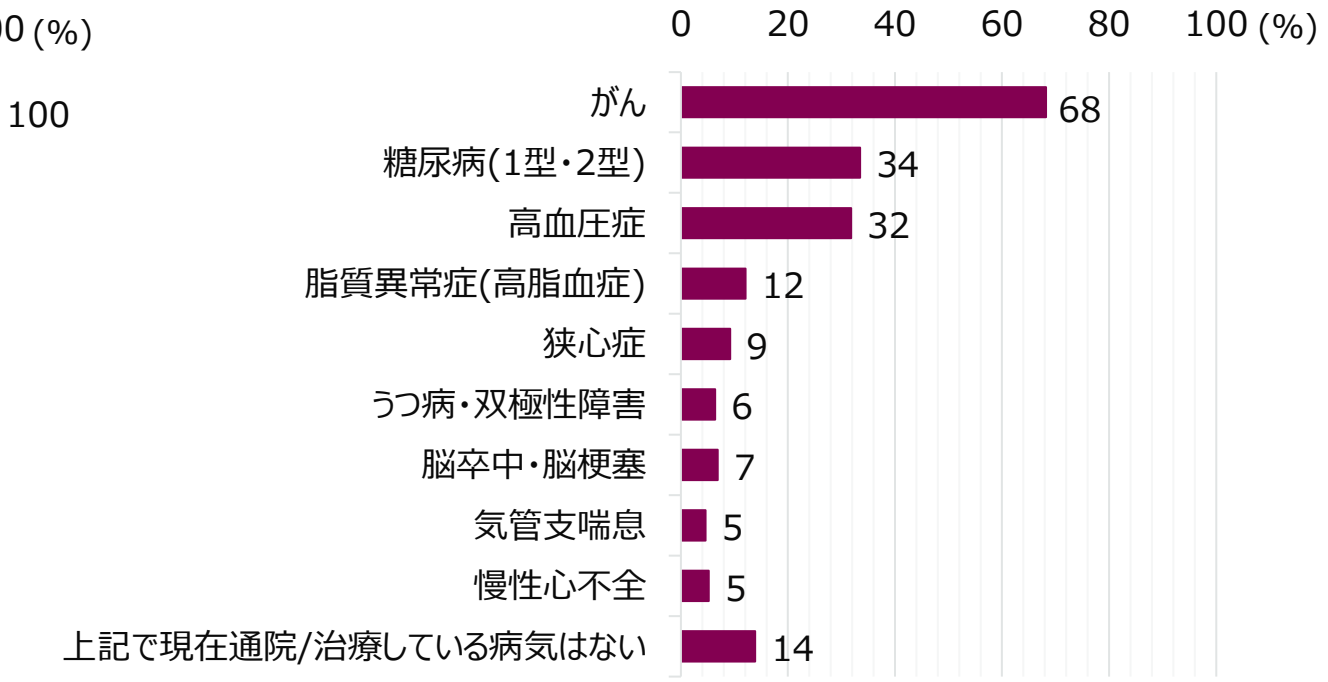
Q.現在治療中の病気も含め、あなたがこれまでにかかったことがある病気をすべてお選びください。(複数回答)

n=173



Q.次の病気のうち、あなたが現在定期的に通院して治療中の病気をすべてお選びください。(複数回答)

n=173



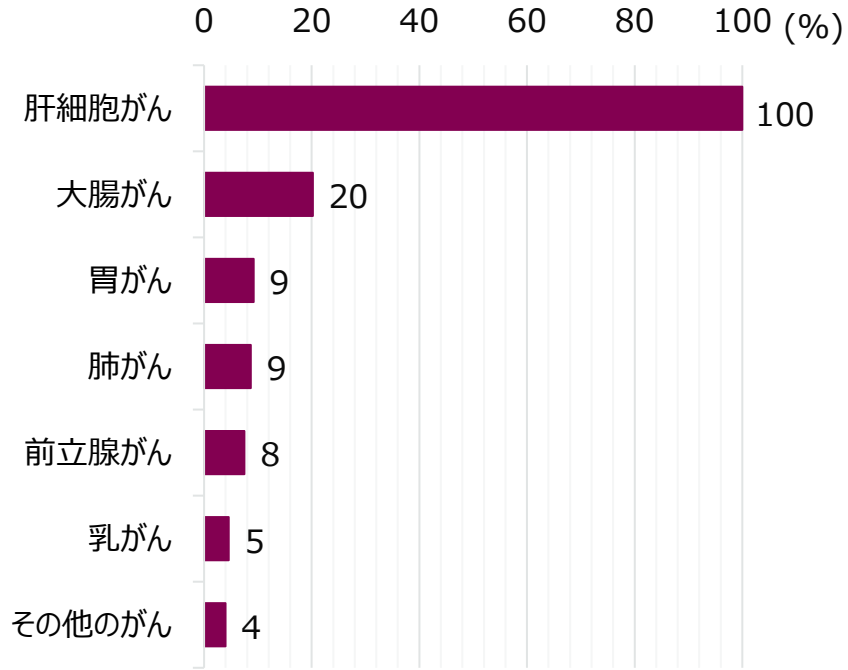
※かかったことのある病気の全体の値を基準に降順ソート

がん種、肝疾患

- **肝細胞がんの患者のうちの77%が肝疾患にかかったことがあった**

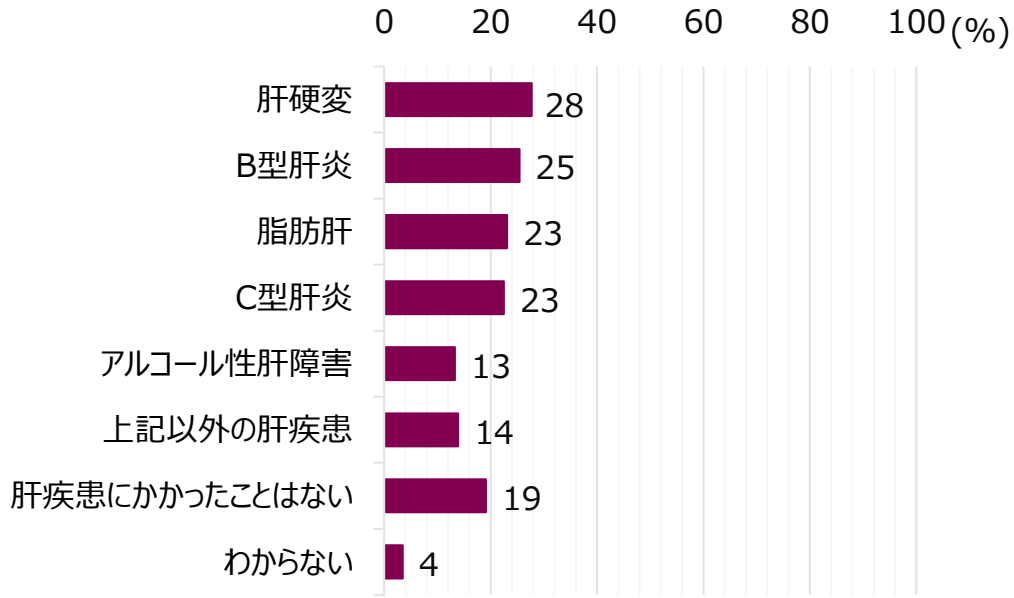
Q.あなたが、これまでにかかったことのある「がん」をお選びください。
(複数回答)

n=173



Q.「肝細胞がん」にかかったことのある方お伺います。次のうち、これまでにかかったことがある肝疾患をすべてお選びください。(複数回答)

n=173



肝疾患にかかったことがある	かかったことがない・わからない
77%	23%

※全体の値を基準に降順ソート

性別、年齢、居住地

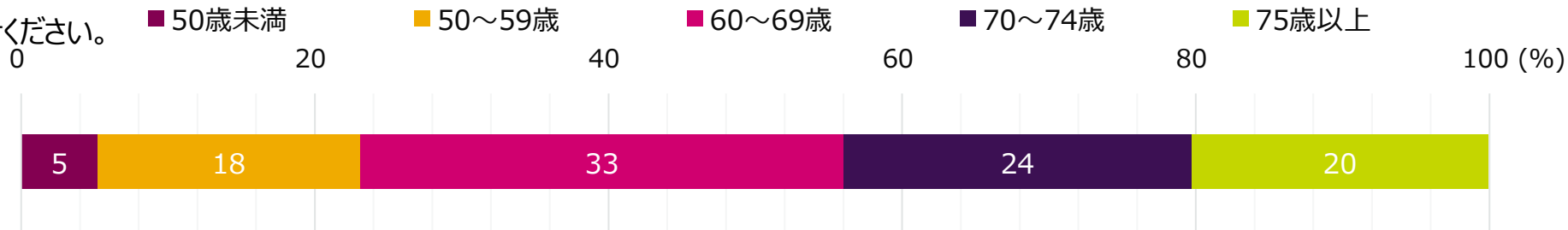
- 回答者のうち89%が男性で回答者の平均年齢は66歳であった

Q.あなたの性別をお選びください。

n=173

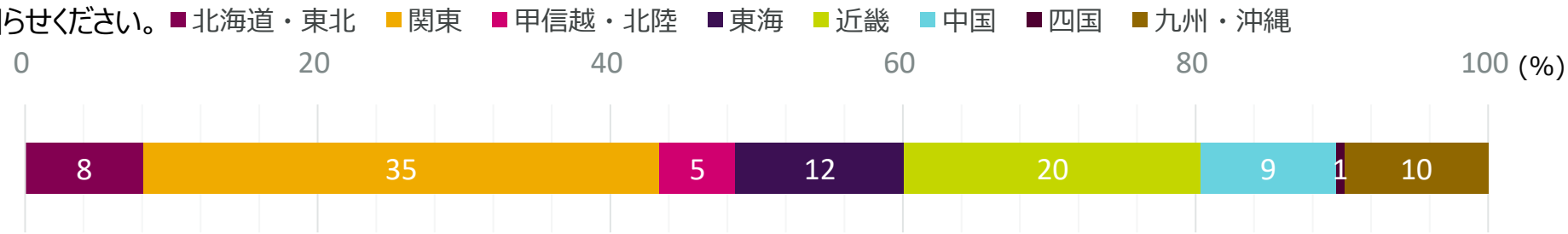
Q.あなたの年齢をお知らせください。

n=173



Q.あなたのお住まいをお知らせください。

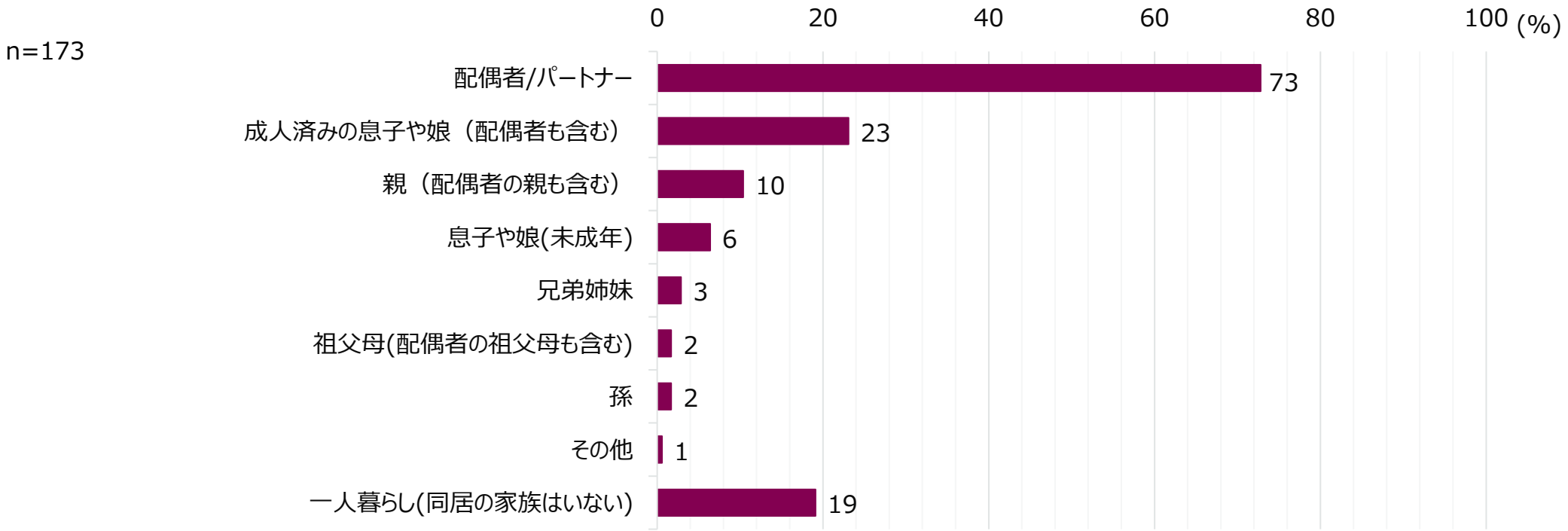
n=173



同居家族

- **回答者のうち81%が同居家族があり、一人暮らしの方は19%であった**

Q.あなたが現在一緒にお住いのご家族をすべてお選びください。(複数回答)



同居家族あり	1人暮らし
81%	19%

※全体の値を基準に降順ソート